

『聖餐の祝福』1コリント11:23-26

11:23 わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えたのである。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンをとり、

11:24 感謝してこれをさき、そして言われた、「これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。

11:25 食事ののち、杯をも同じようにして言われた、「この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい」。

11:26 だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。

●本論

「神に祈るとは？」というタイトルの学びの中で、私の心になぜか今も深く留まる言葉があります。それは「私たちは、直接にはではなく、御子(イエス・キリスト)を通して神に祈る」という言葉です。

そのポイントは、「直接ではなく」という言葉です。それは、私たちが本来は、決して神さまに近づくことができない罪人であることを示しています。

そして「御子を通して」という言葉が、イエス・キリストがそんな私たちの罪と汚れの刑罰をすべて十字架にかかって受け取り、命を犠牲にして私たちの身代わりとなってくださったことを示しているのです。

キリストは、わたしの名によって祈りなさいと言われました。私たちが今日、神さまに祈ることができる。神さまがそれに耳を傾け聞いてくださり、応えてくださる。その理由は、ただこのキリストを通してであるということです。

●序論

I. 完成された新しい契約

11:25 食事ののち、杯をも同じようにして言われた、「この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい」。

「新しい契約」という表現。

旧来、聖書の中で「契約」という言葉だけであれば、創世記に始まり多くのところで語られています。

そのどれもが、牛や山羊などの動物犠牲によって立てられたものでありました。

ただ民はその不従順の罪のゆえに、神さまに背を向け、裏切りました。人々は、その罪を贖うために何度も動物の犠牲をささげることで、神さまとの関係を修復し、契約を更新しなければならなかったのです。

神さまはそんな人間のために「新しい契約」の準備を進めて下さったのです。

それはご自身のひとり子、罪のない神の子を、私たち罪人の身代わりとして犠牲にすることで、全ての人の永遠の罪の贖いとしてくださったということです。

罪なき神の子が、私たちの身代わりとなってくださったこと、それ自体で、この新しい契約の準備は完成されたのです。

ただその完成された契約に、調印するかどうか、それが実は人の側の「信仰」という応答であり、また「洗礼」を受けることで表します。

誤解のないように、洗礼を受けること、また聖餐を受けること自体で人が救われることはありません。

ローマ3:25-26

:25 神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。

:26 このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさる(義とお認めになる)ためです。

神は、このキリストを通してみもとに来る物を皆赦して下さいます。

キリストの血が語るのは、キリストを通して神に立ちかえる者にとっては、「神は慈しみと憐れみに富むお方である」ことを知る証です。

ですから聖餐式は、神さまが犠牲をもって完成された契約に、信仰をもって応答した契約者たちが、その契約を感謝し、味わう時であります。

Ⅱ. キリストを記念する

キリストは、繰り返して「わたしを記念するため、このように行いなさい」と弟子たちに告げました。

目的は、「イエス・キリストを記念する」ことだとわかります。

先日の教区70周年の記念関西聖会。

記念するということは、思い出に思いをはせ「過去の出来事への思いを新たにし、その上で新しい何かをすること」です。

そういう意味では、会場も含め新しい色々なことに目を向けるチャレンジに満ちた聖会だったように思います。

キリストが定めた聖餐もまたそうです。

キリストは新しい契約のしるしとしてそこに聖餐を定められたのです。

パンとぶどう酒。それはキリストが経験される「死」を象徴していました。

「いのちのパン」であるご自身が裂かれて死ななければならないこと。その結果、霊的に飢えて滅びに向かう人たちにその命が分け与えられること。そして、ぶどう酒は、キリストがその契約のために流された命そのものでした。

だから私たちは、聖餐式を特別な時として礼拝の中で持ちます。

それは、心からイエス・キリストがなされた十字架の犠牲を記念し、思い起こし、感謝し、受け取るためです。

それらを心から味わい、また心に新しく刻み続けて、感謝して歩むということなのです。

パウロは厳しい言葉をもってこの聖餐にあずかる者の心に問うています。

11:27 だから、ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだと血とを犯すのである。

それは、十字架で犠牲になられたキリストを思い、それによって完成された罪の贖いを記念するものであることを心から感謝して受けとめる、わきまえるということです。

「私を記念してこのようにしなさい」と語られたイエスさまは、この聖餐の時をお通して、最も神さまらしいなさり方で私たちの心に十字架の契約を深く刻みつけてくださるのです。

ここに神秘的な違いがあり、その体験の中に私たちは招かれています。

Ⅲ. とともにキリストに結ばれる

パウロがキリストの言葉を引用してコリントの教会に対して「主の聖餐」を説く記事を読んでいます。

この教会では主の聖餐がもたれていなかったのか？いいえ、そこに問題があったとあるのです。

11:17 ところで、次のことを命じるについては、あなたがたをほめるわけにはいかない。というのは、あなたがたの集まりが利益にならないで、かえって損失(害)になっているからである。

...

11:20 そこで、あなたがたと一緒に集まるとき、主の晩餐を守ることができないでいる。

11:21 というのは、食事の際、各自が自分の晩餐をかってに先に食べるので、飢えている人があるかと思えば、酔っている人がある始末である。

これは、その当時の集まりでもたれていた主の聖餐のときに、混乱があり、人々は、お互いを軽んじ、その食卓はバラバラ、一致が無かったのです。

聖餐式の式文の中でこんな言葉があることを覚えておいででしょう。

「この聖餐にあずかるとき、キリストは、わたしたちのうちに親しく臨んでおられます。またこの聖餐は、わたしたちが主の愛のうちに一つであることをあらわすものです。」

この文言はとても重要です。わたしは時々、こう皆さんに語り掛けます。

「どうか今、この聖餐式に共にある兄弟姉妹のお互いを見てください」と。

今、共にこの聖餐の時を共にするわたしたちも、またキリストの愛の内に一つであるこ

とを知ることが大切なのです。

今年掲げているわたしたちの教会が掲げている言葉はこれです。

「キリストにつながっていなさい」。

わたしたちが一致できる何よりも中心にあることは、キリストにつながるという、その一つのことです。

おわりに)

の聖餐のひとつときは神さまから与えられている恵みの時です。ルカの福音書

ですから、聖餐式では毎回「招きの言葉」をもってこの聖餐にのぞむ皆さんに語り掛けています。

その上でここで、だれがこの聖餐にあずかることができるのか、否か？ということが挙げられるでしょう。後悔であるからです。

11:27 だから、ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだ
と血とを犯すのである。

11:28 だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。
結論から、申し上げます。本来、神の目から見るとふさわしいものなどこの世に一人もいないのです。それがまぎれもない事実です。

わたしたちは、「直接、神のもとに行くことはできない」のです。

そんな、ふさわしくない人が、イエス・キリストのゆえに、ふさわしい者呼ばれて（つまり義と認められて）聖餐の食卓に招かれている。

だからこれを「恵み」と呼ぶのです。

ある意味、まじめにふさわしくないと感じている者のみが、このキリストによって聖餐にあずかることができる正しい態度といえるでしょう。

そして何よりイエスさまが、その救いを受け取るわたしたちにこの食卓に連なるように望んでくださっているのです。